（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社　ハートフル拓愛		
事業所名	グループホーム　武芸川　あかね		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡字白山331－1		
自己評価作成日	平成22年12月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170900274&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅街に溶け込み、自然環境にも恵まれた中で、木造の家庭的な雰囲気で利用者の安心と穏やか生活を支援し、全職員が利用者本位のケアを心掛け、より良いケア、より良い環境作りに努めている。家族会が組織され、同系列ではあるが、年二回他施設交流会を行い、職員、家族間の交流もあり、家族が他の入居者とも交流し、入居者も自然と話し易いホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

設立以来、利用者本位のケアを目指して、安心と穏かな生活を支援している。職員は、利用者本位のケアを実現するために、職員間の連帯感を高め、常に理念に立ち返りながら、日々のケアに取り組んでいる。地域との関係は、開設時に受けた、営利法人のイメージから、高齢化社会の重要な役割りを担う法人としての理解に変わっている。高齢者の入居希望の増加、地元職員の雇用、地域の業者や商店には、経済的メリットも生まれている。家族会は、他の同業者よりも先駆けて組織され、協力関係を継続しながら、ホーム運営の強力な応援者となっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は廊下の見やすい所に明示し、また職員会議の冒頭で全員で声に出して確認、共有し利用者の気持ちに寄り添い、日々実践に繋げている。また、理解、向上の為、職員個々にテーマを持ち取り組んでいる。	地域の人々と交流し、共に支えあい、心から喜びが感じられるように、5項目の理念を掲げている。理念は、職員会議で、声に出して確認・共有し、利用者の気持ちに寄り添い、心で尽くすケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、地域との交流を目指して努力している状況である。ボランティアとして地域の方々に来ていただいたり、近隣の方を職員として採用したり、少しづつであるが交流できている。	地域の防災訓練に参加する等、ホームの役割を理解してもらうために具体的な行動を取っている。さらには、地域との関係づくりに、カレンダーを配布したり、地元の商店との取引等を通じ、交流に努めている。	開設以来、地域との関係が課題であったが、地域関係者の協力で改善が進んでいる。ホームからの地域貢献を積極的に提言しながら、継続的な努力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々が来て頂いた時などは、なるべく利用者が参加出来るようにしたり、利用者、職員と共におやつ、食事を一緒に食べたりして無理なく理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、事業報告に対する評価や、利用者の状況、状態などを報告し、意見を聞き、検討した結果を事業運営に反映させている。	会議は、2ヶ月ごとに開催され、行政・地域関係者・家族が参加している。事業運営報告に加え、出された意見をもとに、年に数回の日帰り旅行が実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に必ず出席していただき、行政の情報や助言を受けている。地域包括支援センターや市主催の会議や研修には、出席したり、空き情報の提供などをしている。	市の担当課へ出向き、新規事業の取り組みを相談したり、福祉情報や研修情報を得ている。行政主催の会議に毎回出席し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為をしっかりと認識しあい、職員相互で気をつけ、職員会議等でも取り上げるようにしている。やむを得ず必要が生じた場合は家族の同意を書面で得ることにしている。日中は施錠をしていない。	職員は、拘束の弊害を学習し、拘束のない余裕のあるケアを行っている。これまでも、やむ得ない事情が生じたときに、拘束を回避する方法はないか検討している。日中は、玄関の施錠を開放し、出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議で取り上げ、職員間で研修したり、外部研修を受けたりしている。日常生活に於いても虐待が見過ごされないように注意を払って防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講したりしているが、具体的に成年後見制度等を活用できるような支援は今のところ、行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に契約内容、重要事項等を十分説明し、文書の同意欄に、利用申込者又はその家族の署名若しくは、記名捺印していいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1日に「おやつ会」を開き、利用者と楽しみを共有し、思いを感じ取ったりしている。二か月に一回「家族会」を開き、家族同士も意見を交換したり出来るようにし、それらを運営に反映させるように心掛けている。	家族が訪問する機会が多く、また、2ヶ月ごとの家族会でも、意見・要望を聞く機会にしている。利用者が楽しめる日帰り旅行等を話し合い、実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開き、業務の見直しや様々な意見交換したり、ヒヤリ、ハットのメモを設置し、気づいた時にはすぐに記入出来るようにしてあり、職員会議に図るようにしている。	管理者は、定例の全体会議で、意見・提案を話し合っている。業務改善や事故予防の提案等を、代表者に伝え、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資質向上の為、それぞれが、テーマをもち勤務に取り組んでいる。それを評価し、個々各自が希望、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに職員は順次受けるようにし、職員会議に発表を行い、情報を共有し、研鑽しあえるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しているので、支部会出席の折などに同業者と意見・情報交換・交流を行っている。系列のグループホームとは、年2回交流会を開き、利用者、家族、職員の交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の希望を聞き,ホーム見学等をしていただき、本人が納得されてからサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族と面談し、関係作りを図りながら傾聴に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医の意見も参考にしながら管理者・ケアマネ、職員も交え、サービスの利用について検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ、食事等を共にし、日常会話を中心に声かけをしながら、お互いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事等は、共に過ごしていただいたり、家族会での話し合いや、来訪の際に近況報告をしたり相談を受けたりと、常に身近な存在で協力し合って本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊の折には、馴染みの方に会ってきていただいたり、門戸を開放し、友人等にもいつでも遊びに来れるようにし、今までの関係が途切れないように支援し、喫茶店等外出の機会も作るようにしている。	家族を初め、友人・知人の訪問が多く、馴染みの関係を継続している。近くの商店や喫茶店にも出掛け、新たな馴染みの関係を築いている。外泊などの機会には、家族の役割りとして協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各自の相性や好みや癖等を把握し、居室や食堂・居間での配置等を配慮し、孤立せず関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出行事等にお声を掛けたり、相談などある場合出来る限りの支援を心掛けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のコミュニケーションから一人ひとりの思いの把握に努め、誕生日のプレゼントなどは本人と一緒に買物に行き、希望の品物を選ぶなどしている。	利用者と、日々の会話の中で、思いや意向を把握している。会話の困難な人は、表情から汲み取っている。また、誕生日などの祝い事のあるときは、要望を聞いて、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活のコミュニケーションや家族からの聞き取りや会話などから把握に努め、職員間で情報を共有し、ケア、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや各人の毎日のケース記録・バイタルチェック・主治医の往診、やりとり等や生活記録をし把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で本人の状態、希望等を検討し、情報を共有しながら、本人・家族の意向も取り入れて介護計画を作成している。	本人・家族と話し合い、要望を聞き、全職員でモニタリングの結果を検討して、介護計画を作成している。状態の変化があれば、家族や、かかりつけ医と相談し、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り、個人ケース記録、ヒヤリ、ハットの検討などで情報を共有し、利用者の小さな変化にも対応できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態、家族の状況に応じて病院受診や往診、外出支援、季節の応じた行楽地などへの日帰り旅行、食事会等を支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々にではあるが、地元地域のボランティアなどきていただけたりして交流ができつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、適宜、連携を取り介護に生かすようにしている。二つの協力医院から、それぞれ月2回の往診を受けている。歯科医も随時、往診していただけるようしている。	利用者・家族の承諾を得て、2つの協力医をかかりつけ医としている。2つの協力医は、それぞれ月に2回の往診で、適切な医療を提供している。緊急時や家族による通院が困難な場合は、職員が同行し、受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、申し送りをし、日常の気づきなど情報を共有出来るように努め、職員会議で意見交換もしている。医療連携体制が出来るようにしていく必要がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時なども随時病院に行き、状態を把握し、病院関係者、主治医、家族とも相談するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族の意向を聞いたりし、最後まで看てほしいとの願いがあるが、重度化した場合は、介護施設や医療機関に移ることを基本にしている。重度化への移行期に於ける介助、介護方法の心掛けや医療連携体制やマニュアルの整備が必要である。	重度化や終末期を迎えたときには、他の介護施設や医療機関に移ることを基本にし、家族に説明している。しかし、家族からは、最期まで看てほしいとの願があり、ホームで対応できる限界や医療連携の体制について検討している。	家族の希望に応じることは可能か等、協力医と看取りの連携についても話し合いの段階であり、重度化に向けた方針の文書化を進めている。具体的な取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回避難訓練時に地元の消防署に来ていただき応急処置、AED使用方法、消火器使用法など訓練している。応急手当の方法のマニュアルは、すぐに参照、閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練時に地元の消防署に来ていただき、指導、助言をお願いし全職員、全入居者が参加しているが、夜間対応など地域との連携、協力、防災訓練などにも参加していくことが、必要である。	消防署の指導の下で、年に2回の避難訓練を実施している。また、地域と合同の防災訓練に参加している。夜間を想定した自主訓練や、地域との連携については、話し合いをしている。	避難訓練は、家族会や運営推進会議と連携した訓練実施に期待したい。また、近隣との相互協力について、継続した話し合いに努められたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ介助では暖簾を掛けたり、扉をしめて行ったり、声掛け、言葉遣いを配慮するようにし,羞恥心やプライドを損ねないようにしている。	一人ひとりの、その人らしい個性を大切にし、声掛けや言葉遣いに配慮している。職員は、ケアの具体的な場面で、誇りやプライバシーの確保について話し合い、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつの飲み物は、メニュー表から選択出来るようにしたり、外出行事に好みの食事が出来るようにしたりしている。日常的に会話を大切にし、月に1回「おやつ会」を開き、気軽に話が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつなど共にし、日常的に会話し、一人ひとりのペースを大切にし、ゆったりと過せるように見守り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの馴染みの衣類を着用し、季節に合わせた衣類の入れ替えを行っている。定期的に理容師の方に来ていただいて散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食前には、口腔体操を行い食事しやすくし、一人ひとりの食器類があり、職員も同じものを一緒に食事しながら、出来るだけ自分自身で、食事が摂れるように支援、見守りしている。下膳、お膳拭きなど利用者で出来る方にはしていただいている。	利用者と共に育てた野菜を食材にし、食事を作っている。職員も同じ物を一緒に摂り、味付けを話題にしながら楽しく食事をしている。利用者は、下膳や片付けなどに、自主的に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は、していないが、一人ひとりの状態に応じて刻み食にしたり、量を調整している。月に一回体重測定を行い状態の把握に努めている。必要な時には、夜間、水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、声掛けや義歯清掃など口腔ケアをしている。必要に応じ、歯科医の往診による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりに合わせた声掛けや、介助を行い、失敗など少なくなるように支援し、便通など出来るだけ薬剤に頼らないようにしている。	排泄チェック表で、個々のパターンを把握し、トイレに誘導している。職員は、サインを見逃さないように、常に気配りし、失敗の少ないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせた働きかけをし、水分補給、乳製品、果物、野菜等の栄養バランスに配慮したりしている。又、散歩など運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施し、入浴順は、いつも同じにならないように順送りになるように配慮している。檜の湯船であり、ゆったりと湯に浸かってもらったりしている。	週に3回の入浴を基本としているが、汚れのある場合は、柔軟に対応している。入浴順番表で、公平になるよう取り決め、不満もなく、ゆったりとした気分で檜の浴槽を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候の良い日には、順次、布団干しをし清潔な寝具で気持ちよく休んでいただけるよう支援し、起床時間や午睡は、本人のペースでしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違い、飲み忘れなどないように服薬チェックをし、毎朝、本人と話しながらバイタルチェックをして体調、症状の変化の確認、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いをしたり、一人ひとりが、出来ることをしている。外出行事などを楽しんだり、音楽療法士、落語やボランティアの来訪を楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ、近郊を散歩したり、喫茶店などに出かけている。外出行事など年に数回行い、家族会やボランティアの方々の協力を得ながら、全員が、外出出来るように支援している。	日常的に、ホーム周辺を散歩している。近郊の神社や喫茶店等へ定期的に出かけている。家族会と合同で、年に数回は、名勝地への日帰り旅行を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ホームで管理しているが、外出時など、本人の希望する物など買ったり出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、電話は自由には、使用できないが、本人から要請があれば、取次などできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で落ち着いた共用空間には、季節の花を飾ったり、行事の写真や作品を展示している。リビングは、大きな窓で、季節を感じる風景を眺めることができ、縁側にも出ることができくつろげるようになっている。。トイレ、風呂等は、大げさな表示ではなく認識できるようになっている。不快な音や光などもない。	木造で落ち着いた共用空間になっている。窓越しからの景観も良く、季節が感じられる。居間や玄関には、花や手づくり作品を飾り、生活感を出している。表示物は、大げさにならないようにし、居心地に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やクッションなどそれぞれに違い、テーブル(炬燵)を2か所設置し、それぞれで過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口は、異なる模様の暖簾を掛け、入口を開けていてもプライバシーを守れるようにし、畳敷きでくつろげるようになっている。それぞれに使い慣れたものや馴染みの衣類など本人が、使用し易いように配置などを配慮している。	居室入り口は、個性的な表札と、異なる暖簾で、自分の部屋を認識できるように工夫している。個々に、使い慣れた馴染みの物が配置され、安心して過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた居室内の物品の配置をしたり、手すりを取り付けている。		